

研究テーマ (共通の視点)	言語材料と言語活動とのバランスを考えた指導
------------------	-----------------------

1 単 元 名 Program 8 *Origami*

## 2 目 標

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	間違ふことを恐れず、助動詞を使ってできることやできないことを積極的に書こうとしている。
外国語表現の能力	助動詞を用いて、語と語のつながりなどに注意して文を書くことができる。
外国語理解の能力	
言語や文化についての 知識・理解	助動詞 can に関する正しい語順や語法などを用いて文を構成する知識を身に付けている。

## 3 指導にあたって

## (1) 単元のねらい

生徒は1学期に、be 動詞と一般動詞を用いた文の構造を学習している。既習の文法事項と新しく学ぶ助動詞の文法事項との類似点や相違点を理解するうえで、生徒の戸惑いが予想される。そこで、関連のある文法事項をまとまりをもって整理する指導過程を工夫することで、文の構造を活用し、正しく文を書く力を育てることができる考える。

本単元は、生徒が助動詞の文法事項の学習を通して、既習の be 動詞や一般動詞の文法事項を振り返るよい機会である。そこで肯定文、否定文及び疑問文の構造に気付き、運用し、整理・理解する指導過程を工夫することで、適切な文の構造を文脈から判断し、正しい語順を用いて肯定文、否定文及び疑問文を構成する力を身に付けさせたい。

## (2) 生徒の実態 (男\*名, 女\*名, 計\*名)

全体的に授業に対して落ち着いて意欲的に取り組むが、下位の生徒を中心に英語に対して苦手意識をもっている。下位の生徒の多くは、「単語を覚えても話せない・書けない」と感じている。そこで日頃から、品詞を意識して単語の順序を覚える活動を多く取り入れたり、個人差に応じた指導方法を工夫している。また適切な文の構造を文脈から判断し、正しい語順を用いて肯定文、否定文及び疑問文を構成する力が十分には身に付いていないことが、実態調査の結果から分かった。これまで、知識としての文法を指導することに重点を置いてきたが、適切な文の構造を文脈から判断し、正しい語順を用いて肯定文、否定文及び疑問文を構成する力を身に付けることが必要である。関連のある文法事項をまとまりをもって整理する指導過程を工夫することで、「自分にもできた」「分かった」という自信をもたせることが重要であるとする。

## (3) 指導観

上記のような生徒の期待に応えるためにも、コミュニケーションを支え、円滑に行うための文法事項を確実に身に付けることができるように指導過程を工夫していきたい。適切な文の構造を文脈から判断し、正しい語順で肯定文、否定文及び疑問文をの構造で書くことができる達成感を感じさせたい。

## 4 授業計画 (5時間取り扱い) (助動詞 can に関する部分のみ)

次	時	学 習 内 容	基 礎 基 本 の 事 項
一	1	助動詞の文の構造の使用	助動詞を用いる小学校外国語活動を踏まえた活動を行う。
	2	肯定文、否定文及び疑問文の構造への気付き	単語カードを並べ、正しい語順を用いて肯定文、否定文及び疑問文を作る。
	3	疑問文の構造の運用	グループで話し合っ、インタビューするための疑問文を正しい語順を用いて書く。
	④ (本時)	肯定文、否定文の構造の運用	ALT にインタビューし、答えに応じて繰り返す。インタビューの中で肯定文、否定文の構造を運用し、繰り返した文を書く。
	5	肯定文、否定文及び疑問文の構造の整理、理解	文の構造を見直し、既習の文法事項と新しく学んだ文法事項を比較対照し、肯定文、否定文及び疑問文を正しい文の構造で整理し理解する。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ALTの答えを聞き取り，その答えに応じて正しい肯定文，否定文の構造で繰り返すことができる。
- ・ALTの答えに応じて繰り返した肯定文，否定文を，正しい語順を用いて書くことができる。

(2) 準備・資料

- ・教師：単語カード，ワークシート，評価カード
- ・生徒：教科書，ノート，英語ファイル，自己評価カード

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 本時の学習課題を知る。</p> <div data-bbox="188 734 722 896" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・インタビューをして，正しい肯定文，否定文の構造で繰り返そう。</p> <p>・繰り返した肯定文，否定文を，正しい語順で文を書こう。</p> </div> <p>3 活動内容を確認する。</p> <p>(1) 到達目標を確認する。</p> <p>(2) 答えは必ず記入し，繰り返す。</p> <p>(3) 発表しているグループを評価する。</p> <p>(4) 繰り返した英文を，グループで話し合い，協力して書く。</p> <p>4 ALTにインタビューする。</p> <p>活動例</p> <div data-bbox="196 1361 665 1480" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>S: Can you ~ ?</p> <p>A: No, I can't. I can't ~.</p> <p>S: Oh, you can't ~ .[繰り返す]</p> </div> <p>5 インタビューで得た情報を整理し，正しい語順を用いて肯定文，否定文を書く。</p> <p>6 自己評価カードに記入し，次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業が始まる雰囲気を作り出す。</li> <li>・ALTの質問に対して[It's ~.]で答えるよう助言する。</li> </ul> <div data-bbox="798 577 1430 660" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>相手が言ったことに応じて繰り返すデモンストレーションを行い，生徒の意識付けを図る。(手立て1)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港で有名人を待っていた記者であるという状況を確認する。</li> </ul> <div data-bbox="798 779 1430 896" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>JTEとALTとの，既習の疑問文を用いた会話を聞かせることで，ALTの答えに応じた繰り返し方を確認する。(手立て2)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声量，話す速度，表情，姿勢，態度，アイコンタクトなど，注意しなければならないことを確認させる。</li> <li>・ワークシートに，助動詞 can を用いた疑問文が2文以上書いてあることを確認させる。</li> <li>・各グループのインタビュー後に賞賛し合う雰囲気が大切であることを意識させる。</li> <li>・評価カードに，よかったことを必ず一つ見付けて記入するよう指示する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループの発表中に練習しないよう指導する。</li> </ul> <div data-bbox="798 1323 1430 1440" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ALTが Yes. や No. で答えた後に，それに応じて正しい肯定文，否定文の構造で繰り返すことができたか。(観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTの Yes. 又は No. の答えを忘れずに記入するよう，様子を見て助言する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得た情報を基にインタビュー用ワークシートに肯定文，否定文を書くよう指示する。</li> <li>・ALTの Yes. 又は No. の答えに合わせて繰り返した英文を書くことに気付かせる。</li> </ul> <div data-bbox="798 1711 1430 1827" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ALTの答えに応じて繰り返した肯定文，否定文を，正しい語順を用いて書くことができたか。(ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価カードに記入し，本時の活動を振り返らせる。</li> <li>・インタビューで得た情報を基にワークシートに書いた文を用いてまとめ，記事にすることを伝える。</li> </ul>